



鈴峰中だより

第9号

校訓『明るく 美しく 楽しく』

<https://www.edu.city.suzuka.mie.jp/jhreiho>

鈴鹿市立鈴峰中学校

★★★ 全国学力・学習状況調査の結果と分析 ★★★

令和8年度の全国学力・学習状況調査(4月実施)の結果等をお知らせいたします。

1. 学力調査の結果：平均正答率(%) ※英語はIRT方式による算出結果

	国 語	数 学	英 語
鈴峰中学校	64	54	476
鈴鹿市(公立)	60	52	482
三重県(公立)	62	56	494
全国(公立)	63.9	57.0	499
全国比	+0.1	-3.0	-23

IRT方式：
正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表したものの。

設問項目ごとの強みと弱み

教科	強・弱	設問の趣旨	全国比
国語	強み	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうか	+10.5
	弱み	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を基に捉えることができるかどうか	-10.0
数学	強み	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができるかどうか	+4.8
	弱み	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうか	-14.8
英語	強み	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうか	+17.1
	弱み	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうか	-17.2

2. 家庭学習(生徒質問紙より)

○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 【1時間以上】の回答割合%(カッコ内は昨年度比)

鈴峰中学校	鈴鹿市(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	全国比
53.6(+4.2)	54.5	61.7(+1.2)	61.6(0)	-8.0

○土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む) 【1時間以上】の回答割合%(カッコ内は昨年度比)

鈴峰中学校	鈴鹿市(公立)	三重県(公立)	全国(公立)	全国比
36.2(-8.2)	41.0	48.9(+0.1)	52.5(-5.4)	-16.3

※昨年度と同様、家庭学習を全くしないわけではないが、30分未満の生徒の割合が多い。

4. 今、求められる力（生徒質問紙より肯定的回答の割合〔%〕） ※太字は全国平均より上

	質 問 項 目	鈴峰中	全国
主体的な学び	(39) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	94.2	78.8
対話的な学び	(42) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている	95.6	87.0
深い学び	(44) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思う	89.9	78.0
個別最適な学び	(41) 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた	88.4	78.9
協働的な学び	(45) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	98.6	92.4
学びのアウトプット	(33) 授業では、各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた	94.2	70.8

※どの項目も昨年度よりさらに高い割合となりました。

5. 非認知能力（生徒質問紙より肯定的回答の割合〔%〕） ※太字は全国平均より上

	質 問 項 目	鈴峰中	全国
やりぬく力	(22) 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	92.8	78.7
自制心	(50) 学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	88.5	78.8
自己肯定感	(8) 自分には、よいところがあると思う	87.0	84.2
社会性	(11) 人が困っているときは、進んで助けている	95.7	91.4

6. 成果と課題（学力調査および生徒質問紙より）

○成 果	▲課 題
○国語・数学においては、知識・技能に関わる問題の正答率が高い傾向にある。英語のリスニングでポイントを聞き取ることができている。	▲国語における「読むこと」に関する正答率が低い。数学は、問題に対する読解力が低く、自分の考えを文章で表現する力が弱い。英語は長文を読み取ることが苦手で、自分の意見を英語で表現する力が足りない。どの教科においてもできている部分とできていない部分の差がみられた。
○「今、求められる力」については、全ての項目で全国平均を上回り、普段から授業で目指している「自ら学ぶことのできる生徒の育成」の成果といえる。	▲家庭学習を1時間以上行っている生徒の割合が全国平均を下回っている。また、30分未満の生徒の割合が多い。
○「非認知能力」についても、本市が重点的に取り組む4つの項目において、全て全国平均を上回った。	

7. 課題改善に向けた具体的な取り組み

- ◎家庭学習の重要性を再認識させるとともに、やり方がわからない子には丁寧な支援を行う。
- ◎授業中、こども同士で教えあいながら学べる環境づくりをさらに増やしていく。
- ◎国語では、限られた時間内で課題を解決する場面を増やす。
- ◎数学では、自分の考えを記述し、相手に正しく伝える場면을授業内で増やす。
- ◎英語では、自分の考えや思いを段階的に英語で表現できる場面を増やす。また長文の読み取りができるよう短文から取り組ませる。

学力調査の結果(個票)については、8月20日に生徒を通じて配付しております。